

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551) 6215~9
ロシア東欧経済研究所 [購読料・送料共前納 1ヶ月-1,500円 1ヶ年-18,000円]

1997年(平成9年)1月25日 No. 1046

目次

ロシア地方選挙の総括.....	服部倫卓 1
—二極対立の緩和と経済派の台頭—	
キーパーソン.....	8
12月から1月にかけてのロシア地方選結果	
ロシアを動かす財界人ビッグ7	
ロシア政府の極東プログラム実施体制固まる	
統計速報.....	12
1996年のロシアの経済実績	
1996年1~11月の日本の対C I S・東欧主要国貿易	
C I S諸国通貨の最新為替レート.....	13

ロシア地方選挙の総括

—二極対立の緩和と経済派の台頭—

要旨

1. ロシアでは1996年9月から1997年1月にかけて、連邦構成体の首長を選ぶ選挙が集中的に実施され、一部で混乱もあったものの、全体としてはロシアにおける民主主義の定着を促した。
2. 地方選シリーズの結果をクレムリン派VS共産勢力という対立構図で見れば、両者の痛み分けに終わったと言えるが、どちらかと言えば現職候補の苦戦が目をつけた。
3. 選挙の過程で、ロシア政治における二極対立の構図が崩れつつあることが明瞭になった。そうしたなかで、「辣腕経済派」と呼ばれる実力派地方リーダーの台頭が目覚ましい。
4. 連邦構成体の首長が自動的に連邦上院議員に就任することから、地方選挙で共産党が躍進することにより上院が左傾化するのではないかという懸念があった。どうやらこれは杞憂だったようだが、民選知事の多数誕生が上院の存在感や独自性を増すことは間違いない。地方選挙を契機として、当初取り沙汰されたのとは違う意味で、ロシアの政治・経済に地殻変動が生じている観がある。